寧靜閣四集　四

止

詩文

へ 16
3302
16

門 へ 16
號 3302
卷 16

詩經國風十篇解

目次

關雎　葛覃
綠衣　燕燕
谷風　柏舟
碩人　伯兮
女曰鷄鳴　鷄鳴

黒川眞道藏書

詩經國風十篇解

嘉永辛亥の夏、臣清崇に命じ給ひて、詩經の内、婦人の教訓にもなるべき詩を選みて、やがて、皇國語にかへて見せよとの御言ありよりて、國風の中につきて、十篇を擇み出し、これが解をなし、拙き筆にて書綴りて奉るになん、

○關雎は、宮中の婦人、文王の后妃太姒の徳を詠じたる詩なり、

關關雎鳩、在河之洲、窈窕淑女、君子好逑。

關關とは、雌雄、和ぎ鳴きて、相應ずる聲なり、雎鳩は、みさごとて、雌雄、むつまじく、妄に相狎れざる水鳥をいふ、在河之洲とは、その水鳥、流れ川の洲の上にありといふこと、窈窕は、しづかにおちつきたる意、淑女は、よきむすめにて、卽ち、文王の后妃太姒をいふ、君子は、文王をさす、好逑とは、よきたぐひにて、猶、よきつれあひといはんが如し、

此詩の作りさまは、三章とも、皆、興の體とて、他の物をもて、その詠ずることを引起す詞なり、周の文王、生れながら聖徳あり、又、聖女姒氏を得て、これを后妃とせられたれば、宮中の婦人、その事を喜して、此詩を作りて、いへらく、かの關々と打和ぎて鳴ける雎鳩は、河の洲にありて、雌雄、むつまじく並び居れり、此窈窕としづかにおちつきたる淑女は、誠に君子のよきつれあひにあらずや、

參差荇菜。左右流之。窈窕淑女。寤寐求之。求之不得。寤寐思服。悠哉悠哉。輾轉反側。

參差とは、長短ひとしからざる貌、荇菜は、あさざとて、蓴菜に似たる水草をいふ、左右流之とは、その水草を、あるは左に、あるは右に、一方と定めずして、流れのまゝに取るなり、寤寐求之とは、いねてもさめても、淑女を求めんとして、やむ時なきなり、求之不得、寤寐思服とは、淑女を求めて、未だ得ざる時は、思ひ〳〵て、片時も忘るるときなきなり、悠哉、悠哉輾轉反側とは、その思ひ長くして、終夜ねもやらず、幾度となく、ね返りして、枕席を安んぜざるなり、

二章は、淑女を求めて、未だ得ざるありさまをいふ、かの參差と、長短ひとしからざるあさゞの草は、右左りを分たずして、流れのまゝに、これをつみとるべし、此靜におちつきたる淑女は、ねてもさめても忘れずして、これを求むべきなり、抑、此太姒の如き德高き后妃は、常に世にあるべきにもあらねば、必ずこれを求めて、君子の配匹となさゞれば、やみがたしと、宮人の憂ひ哀みて、かくは詠じたるなり、論語に、關雎は哀みてやぶらずと、孔子のたまひしは、此章の旨を解かれたるなり、

參差荇菜。左右采之。窈窕淑女。琴瑟友之。參差荇菜。左右芼之。窈窕淑女。鐘鼓樂之。

采之とは、既にとりたるを、又擇みてよき葉を取るなり、琴瑟は、八

音の内、絲の屬にて、絃、五すぢかけたるを琴といひ、二十五すぢかけたるを瑟といふなり、友之とは、友だちの如くこれを親む意、芼之とは、烹てこれを薦むるなり、鐘は金の屬、鼓は革の屬にて、いづれも、音樂の大なる者なり、樂之とは、親みのいよ〱深き意、三章は、既に淑女を得て、喜びの限りなきさまをいふ、荇菜の草、既に擇みとりたらば、これを烹て薦むべし、窈窕の淑女は、既に得て文王の配匹となしたらば、琴瑟鐘鼓の音樂を以て、親みてこれを樂むべし、夫れ、世にも稀なる大德の太姒を、思ひのまゝに得て、我君の后妃となしたれば、宮人の喜び、いかばかりなるべき、關雎は樂みて淫せずと、孔子のたまひしは、此章の旨を解かれたるなり、誠に哀みも樂みも、皆、性情の正しきを得たれば、此詩をもて、三百篇の首に置きて、思無邪の教へとなしたまひしは、聖人の深き勸善の意なるべし、

○葛覃は、后妃の自作にして、みづから、葛の葉を取りて、絺綌を作りし事を詠じたる詩なり、

葛之覃兮。施于中谷。維葉萋萋。黃鳥于飛。集于灌木。其鳴喈喈。

此詩の作りぶりは、賦の體とて、その事をありのまゝにいひのべたるなり、詩の心は、后妃、自ら絺綌を作り、因て、その初の事を賦していふ、葛のはひて、段々と谷の中へ移り、その葉、萋々然として盛に茂りたり、其時、黃鳥のうぐひすが、むらがりおひたる樹木の上に飛集りて、其鳴く聲、喈々と和ぎて、遠く聞ゆとぞ、これは、春に當りて、葛の葉の始めて生ずる時、后妃、既に女工の念を起せし事を詠じたるなり、（此詩以下、字訓は畧しつ、）

葛之覃兮。施于中谷。維葉莫莫。是刈是濩。爲絺爲綌。服之無斁。

扨、六七月の頃にもなれば、葛の葉、莫莫然として茂りおほひて、葛、すでにのび終れり、こゝにおきて、斧もてかりとり、釜もて烹、夫れ

を績みて、絲となし、自ら織りて、絺となし、綌となし、縫ひて衣となし、これを身に服し、縫ひ、垢つき弊るゝに至るとも、聊、厭ひ嫌ふ心なしとぞ、

言告師氏。言告言歸。薄汚我私。薄澣我衣。害澣害否。歸寧父母。

此章は、后妃の歸寧とて、里歸りして、父母の安否を伺ふ事をのべたるなり、言は、我れ、女師に告げて、歸寧の事を君子に請はしむ、ここに於て、自ら、其私服をもみ洗ひ、其禮服を洗濯し、因て、又自ら斟酌して、いづれの衣を洗ひ、いづれの衣を洗はざるべきか、我これを服して、父母に歸寧せんとすとなり、抑、婦人驕奢の情は、限りなきものにて、一たび、麁服を厭ひ嫌ふ心萠す時は、縫ひ綺羅錦繡を身に纏ひたればとて、それにてあきたるとの心はなき者なり、されば、この詩の「服之無斁」といふ一語は、后妃の美徳にて、げにもたふとくありがたき心ならずや、

○**綠衣**は、衞の莊公、嬖妾に惑ひ、夫人莊姜、賢にして位を失ふ、因て、此詩を作りたるなり、

綠兮衣兮。綠衣黃裏。心之憂矣。曷維其已。

此詩は、比の體とて、彼物をもて、此物に比したるなり、綠は間色とて、青と黃とを雜ぜたる色なり、黃は五色の中の色にて、うへもなき、正色なり、夫れ、間色は賤し、然るを貴き衣となし、正色は貴し、然るを賤しき裏となす、皆、其處を失ひたるなり、猶、嬖妾は賤しき者なるを、莊公愛してこれを貴び、夫人は貴き者なるを、却て賤しみて幽微に居らしむるが如し、此を以て、夫人、これを憂へて、其心、いつかやむ時あらんや、

綠兮衣兮。綠衣黃裳。心之憂矣。曷維其亡。

前章には、黃を以て衣の裏となせしが、此章は、又轉じて、下裳となしたり、いよ〳〵其位を失ふこと甚し、この故に、これを憂へて、片

時も忘るるときなきなり、

緑兮絲兮。女所治兮。我思古人。俾無訧兮。

緑の絲は、美麗にして愛すべき者なり、まして、君子の手づから治めて織りたるなれば、いよ〳〵、其愛すべきを見るなり、嬖妾、今十七八の若ざかりなるを、君の寵愛甚しければ、いよ〳〵麗しきにたとへたるなり、莊姜いへらく、我れ、昔の婦人、かゝる變難に逢ひて、能く其事を取扱ひたる者を思ひて、自ら我身に引きあて、過誤なからしむとなり、

絺兮綌兮。淒其以風。我思古人。實獲我心。

絺綌は、薄物にて、夏の衣なり、今則ち、淒然として肌寒き風に逢ひたり、己れ、時を過ぎて棄てられしに譬へたるなり（班女が寵衰へたるを、秋扇に譬へたるも、此類なるべし、）莊姜我れ、古の婦人、よくかゝる變に逢ひても、其場を取扱ひて、聊怨むる心なき事を思へば、誠に我が心の今思ふ所を得たりとなり、此詩は、莊公が、嬖妾と嫡夫人との分を取違へて、其誤りを正す事あたはざるを刺りたる詩なれども、其詞、いかにも温柔にして、あらはれず、論語に、詩可以怨とあるは、此等の詩を仰せられたるか、

◯燕燕は、陳の女、戴嬀が陳國へ大歸するを、夫人莊姜が哀みて送りたる詩なり、

燕燕于飛。差池其羽。之子于歸。遠送于野。瞻望弗及。泣涕如雨。

二ツの燕、一ツは右むき、一ツは左向きとなりて、互に其羽を差池して飛ぶ、戴嬀は南へ歸り、莊姜は北に留りて、相別るゝ意を含みたるなり、扨、莊姜に子なかりければ、戴嬀が子完といふを養ひて、己が子となしつ、莊公、身まかりて後、完、其位につく、これを桓公となす、然るに、嬖人の子州吁といふ者、これを弑して、其位を奪へり、こゝに於きて、戴嬀、やむ事を得ずして、陳に大歸せり、これを莊姜

が、遠く野外まで送りたるに、戴嬀は、既に別を告げて去り、瞻望すれども及ばず、唯、泣涕雨の如く、別れを惜むの情殘れるのみ、

燕燕于飛。頡之頏之。之子于歸。遠于將之。瞻望弗及。佇立以泣。

燕燕、こゝに飛びて、一は飛上り、一は飛くだる、戴嬀歸るに、莊姜、これを遠く送りて、瞻望すれども及ばず、唯久しく立ちて、泣く〳〵別れを惜むのみ、

燕燕于飛。下上其音。之子于歸。遠送于南。瞻望弗及。實勞我心。

燕燕、こゝに飛びて、一は鳴きて上り、一は鳴きて下る、戴嬀歸るに、莊姜、これを南に送り、陳の國は、衞の南にあればなり、瞻望すれども及ばず、實に我が心を勞して、唯悲むばかりなり、此三章、文字のかはり、少しはあれども、皆同じ心にて、限りなき悽愴の情を含めり、讀む人、これを言外に察すべし、

仲氏任只。其心塞淵。終溫且惠。淑愼其身。先君之思。以勗寡人。

此章は、莊姜が、戴嬀の德を美していふなり、仲氏は、即ち戴嬀の字なり、言ふは、仲氏むつまじく、其心は、塞淵と實ありて奥ゆかしく、始終、溫和にして、なさけふかく、よく其身を愼み、常々、先君莊公の事を思ひて、おのれをはげまし、これを念ひて、其守りを失はざらしむ、誠に信實にしてたのもしき人にあらずや、抑、莊姜は、賢にして、莊公に容れられず、夫、死しては、いよ〳〵群小に慍られ、賴みなき身なるに、獨、戴嬀は、終始恩情を以て相親みたれば、寂莫たる深宮の中、唯賴みとすべきは、此人ばかりなり、然るに、今、一朝に隔絶して、永く別れを告ぐる事となりたれば、莊姜の悲歎痛切、誠に言外に察せられたり、されば、此詩を讀みて、涙を隋さゞる者は、誠に不仁不情の人とやいふべき、

○**谷風**は、婦人、夫に棄てられて、自ら其悲怨の情を叙でたる詩なり、

習習谷風。以陰以雨。黽勉同心。不宜有怒。采葑采菲。無以下體。
德音莫違。及爾同死。

習習と和ぎ調へる東風吹きて、陰陽和合し、天陰り雨降りて、萬物、其潤澤を被らざるはなし、猶、夫婦の情、和合して、一家の作法整ひ、能く治まるが如し、されば、夫婦たる者は、唯、黽勉と互にはげみつとめて、雙方心を同じくして、少しの過あればとて、容易怒るべきにあらず、葑菲といふ野菜は、莖も根も皆食ふべけれども、時としては、根苦くして、食ふべからざる事もあり、されば、とて、根の苦きをもて、莖の旨きを棄つべきにあらず、婦人、顔色衰へたればとて、其行跡のよろしき處を棄つべからざるに譬へたるなり、唯、かの德音だに違はずば、我は夫と死を同じくして、偕老の契りを遂げなんと思ふのみ、

行道遲遲。中心有違。不遠伊邇。薄送我畿。誰謂荼苦。其甘如薺。
宴爾新昏。如兄如弟。

扨、夫に逐ひ出されし上は、速に立退かんとしつれども、其心、あとへ引かれて、路を行くにも、遲々として進む事あたはず、兩脚、は前へ進まんとすれども、心に忍ばれぬ處あれば、恰も相背くが如し、然るに、夫の我を見送る事、遠くもなく、甚だ近き門内までにて止みぬ、我が此時の心中の苦しさ、なにゝ譬ふべきか、誰れか荼を苦き物といふぞ、我よりこれを見れば、其甘きこと薺の如し、それを、夫には少しも察する心もなく、己が新に婚姻せし若き妻を樂しみ、これを愛して、兄弟の如くに、むつまじくせらるゝは、いかなる心ぞや、

涇以渭濁。湜湜其沚。宴爾新昏。不我屑以。毋逝我梁。毋發我笱。
我躬不閱。遑恤我後。

涇水は、常に濁り、渭水は常に清めり、然れども、渭水をもて、涇水に

合せて、其清濁、いよ〳〵分る、されども、其支流の沚は、湜々と、きよらかなる處あり、猶、婦人容貌の衰へたるを、新婚の麗しきに並ぶればいよ〳〵其憔悴を見るが如し、然れども、其心の清らかにして取るべき處は、自らあるなり、唯、夫、新昏に安んじ、我れを棄てゝ潔しとせざれば、如何んともすべきなし、但し、我れ既に棄てられたればとて、我がかねて辛苦經營せし家の物を念はざる事を得んや、新昏、汝、我が梁に逝くことなかれ、我が荷を發く事なかれ、既にして又思ふ、我が身すら容れられず、何ぞ、我が既に去れる後を恤ふるに暇あらんやと、

就其深矣。方之舟之。就其淺矣。泳之游之。何有何亡。黽勉求之。凡民有喪。匍匐救之。

此章は、婦人、自ら其家を治めし勤勞の事をのべたるなり、これを水を渡るに譬ふ、其深きに就けば、或は桴し、或は舟し、其淺きに就けば、或は泳り、或は游ぐが如く、事の深淺に從ひて、皆、其心力を盡さゞるはなし、固より、貧家の事なれば、財用の足らざる時もあれど、其有無を計らず、勉强して今日をすごし、又、唯、一家の内を治むるのみならず、凡そ、鄰里鄉黨の民、喪事等ある時は、急遽匍匐してこれを救ひ、總べて內外の事に、其道を盡さゞるはなかりしとぞ、

不我能慉。反以我爲讎。既阻我德。賈用不售。昔育恐育鞫。及爾顚覆。既生既育。比予于毒。

我れ家にありし時は、かゝる勤勞をも盡せしに、夫は、我を能く養はずして、反て、我をもて仇讎となし、既に、我が德をふせぎしりぞけて、曾て取用ひざる事、恰も價物の售れざるが如し、嗚呼、何ぞ、昔しの艱難を思はざらんや、夫婦、互に辛苦して生育せし時は、唯、其生育の道も盡きはてゝ、汝と共に顚覆して、家も亡び身も死なんとせし事もありしに、今は、既に其生育の道も遂げ、安堵の時にな

りたりとて、却て我を毒藥に比して、棄て去るは何事ぞや、

我有旨蓄。亦以御冬。宴爾新昏。以我御窮。有洸有潰。既詒我肄。不念昔者。伊余來塈。

夫れ、美菜を聚めて、旨蓄となすは、冬月欠乏の時の用意に當てんとてなり、今、夫の新昏に安じて、我を厭ひ棄つるは、これ、唯、我れを窮苦の時の用にのみ遣ひて、安樂の時に至りて、反てこれを棄つるなり、然のみならず、夫の我れを、洸然と、あら〳〵しく、潰然と、怒れる色ありて、逐ひ出し、凡そ、艱難辛苦の事、皆我が身に詒し與へて、曾て、昔し我が此家へ嫁し來て息ひし時の事を思はざるは、なんぞや、この婦人、貧家の女なれども、其初、必ず婚姻の禮を整へて嫁せしなり、さるが故に、其棄てらるゝに及びても、其辭を正しくして、其理を陳ぶる事を得たるなり、かの氓詩の婦人の如く、父母の許しもなく、自ら淫奔して、其欲を遂げし者は、其逐ひ出さるゝに及びて、唯、自ら悼み悔ゆるより外なし、これ、男女の婚姻の禮を愼む所以なり、

○柏舟は、衞の世子恭伯、早く死し、其妻恭姜、義を守りて再嫁せず、此詩を作りて、自ら誓ひたるなり、

汎彼柏舟。在彼中河。髧彼兩髦。實維我儀。之死矢靡他。母也天只。不諒人只。

かの汎然と浮べる柏舟は、河の中央にありて移らず、己が貞一を守りて、他に適せざるに譬へたるなり、此髧然と二つに垂りたる兩髦は、(兩髦は、子、父母に事ふる首飾、卽ち、世子恭伯をさしていふ、)實に我が儀匹(夫の事を云ふ、)なり、されば、一旦、吾が夫と定めたる上は、縱ひ、早く身まかりたればとて、吾れは、死するまで、誓て他に適する心はなきなり、母の養育の恩は、誠に天の極まりなきが如くなれども、なんぞ、獨り、我が心の他なきを諒察せられざるや、

汎彼柏舟。在彼河側。髧彼兩髦。實維我特。之死矢靡慝。母也天只。不諒人只。

彼の汎然と浮べる柏舟は、河水の側に在て移らず、此髧然と垂りたる兩髦は、實にこれ我が特匹なり、死に至るまで、誓て邪慝の心なし、（恭姜、再嫁をいひて邪慝となす時は、其心の堅き事しるべし、）母の恩、誠に天の如くなれども、何ぞ獨り我が心の二なきを諒せざるや、嗚呼恭姜の義を守りて二心なく、母のためにも奪はれざる、誠に貞節清操の賢婦人といふべし、

○碩人は、衛人の、莊姜、美にして子なきを閔みて、此詩を作りたるなり、

碩人其頎。衣錦褧衣。齊侯之子。衛侯之妻。東宮之妹。邢侯之姨。譚公維私。

首章は、莊姜の族類の貴きを稱したるなり、言ふは、碩大尊貴の婦人、頎然として丈高く、身に錦衣を着其上に禪衣を加へて、嫁し來る者あり、是れ則ち齊侯の子にして、衛侯の妻なり、殊に齊の東宮得臣の妹にして、太子と同母嫡夫人の生みし所なれば、其身の貴き事、いふもさらなり、又邢侯は、己を呼びて姨となし、譚公は、己に於て聯袂の親あれば、其姉妹も、皆諸侯の夫人たり、夫れ、莊姜、族類の貴き事かくの如し、しかるに、何ぞ、夫君莊公の、伉儷の情を以てこれに答へざるや、

手如柔荑。膚如凝脂。領如蝤蠐。齒如瓠犀。螓首蛾眉。巧笑倩兮。美目盼兮。

二章は、其容貌の美麗なるを稱したるなり、莊姜の手、初生の茅荑の如く、柔にして白く、其膚は、脂膏の凝るが如く、滑にしてしろし、其頸は、蝤蠐の白くして長きが如く、齒なみのそろひて潔白なるは、瓠の子の如く、額の廣くして方正なるは、螓蟲の首のごとく、眉

の細くして長く曲りたるは、蠶蛾の眉の如し、而して其巧笑は、倩然として、口輔美しく、其美目は、盼然として、白黑分明なり、夫れ、莊姜容貌の美しき事かくの如くなるに、何ぞ莊公のこれに答へざるや、

碩人敖敖。說于農郊。四牡有驕。朱幩鑣鑣。翟茀以朝。大夫夙退。無使君勞。

三章は、其齊より嫁し來る時、車馬の盛なりしを稱したるなり、彼碩人敖々然として丈高く、其嫁し來る時、先づ近郊の地に說りて、其車服を整ふ、こゝに於きて、四馬驕々然として壯んに、其馬の鑣毎に、皆朱色の飾りを付け、車の前後には、翟茀とて、雉の羽もて作りたる帷帳を設け、扨此車馬の盛なるに乘じて、衞君の朝に入輿せられたり、其時、衞國の人、莊公の配匹となりたるを喜びて、皆いふ、諸大夫、君に朝する者、各はやく退出して、君をして、政事に勞せしむる事なかれ、冀はくは、夫人と相親む事を得せしめん歟、昔しは、かくの如くにして、今は其然らざるを歎ずるなり、

河水洋洋。北流活活。施罛濊濊。鱣鮪發發。葭菼揭揭。庶姜孼孼。庶士有朅。

四章は、齊地の廣饒なると、夫人の來る時、媵送の盛なるとを稱したるなり、言ふ心は、河水、洋々然として盛大に、其北流、活々然として流れてやまず、其魚罟を設くる時は、濊々然として、水に入る聲あり、其獲る所の魚は、皆大魚鱣鮪の類にして、發々然として盛んなり、其側には葭菼蘆葦の類、揭々然として盛んに生ひたり、扨、夫人の嫁し來る、庶姜姪娣の多き事、孼々然として盛に、庶士媵臣の從ふ者、亦朅々然として武壯なり、夫れ、齊國の大なる、禮儀の備れる、かくの如し、しかるに、何ぞ莊公のこれに答へざるや、ます〳〵、夫人の賢にして、莊公の昏惑甚しきを見るのみ、

○伯兮は、婦人、夫の久しく征役に從ふを憂へて、この詩を作りたるなり、

伯兮朅兮。邦之桀兮。伯也執殳。爲王前驅。

伯は、婦人其夫を目づくる辭なり、婦人自らいふ、我が夫朅然として武々しく、誠に國の英傑たり、今、則ち、長さ丈二にして刄なき殳を執りて、王の爲めに前驅して、征役に從ふなり、

自伯之東。首如飛蓬。豈無膏沐。誰適爲容。

伯の東して征役に從ひしより、我が首髮も、久しく櫛らざれば、其亂るゝ事、恰も蓬草の飛ぶが如し、豈に膏澤の髮を洋すべく、米汁の垢を去るべき者なからんや、但、夫既にこゝにあらざれば、誰を主として、容飾をなすべきや、

其雨其雨。杲杲出日。願言思伯。甘心首疾。

それ雨ふらん、それ雨ふらんと、望み冀ひしに、思ひの外に、杲々然として、日光出で耀きたり、婦人、君子の歸り來るを、日々願ひ望めども、遂に歸り來らざるに譬へたるなり、我れ、念ひてこゝに伯を思ひ、憂苦の情堪へざれども、寧ろ首疾に甘心して、痛み病むと雖も、且悔いざるのみ、

焉得諼草。言樹之背。願言思伯。使我心痗。

何の處にか、諼草を得て、これを北向きの堂に樹ゑて、吾が憂を忘れんや、然れども、終に忘るゝ事能はざれば、唯、念ひてこゝに伯を思ひ、心病むに至ると雖も、且辭せざるのみ、これ、其ひたすら君子を思ひて、他に傾く心なし、誠に純一貞正の賢婦人といふべし、

○女曰鷄鳴は、詩人、賢夫婦、相警戒する詞を述べたるなり、

女曰鷄鳴。士曰昧旦。子興視夜。明星有爛。將翺將翔。弋鳧與鴈。

婦人、早く起きて、其夫を警めていふ、鷄鳴ならん、士は則ちいふ、昧旦ならんと、婦人、又、其夫に語りていふ、子、宜しく興きて、夜の如何

んを見るべし、必ず、既に啓明星の出でゝ、其光爛然たる者あらん、且ツ翱し、且ツ翔して、往きて鳧と雁とを弋し、取て歸られよと、其相與に警めて、夫婦、宴昵の私に溺れざる事知るべし、

弋言加之。與子宜之。宜言飲酒。與子偕老。琴瑟在御。莫不靜好。

射は、男子の事にして、中饋は、婦人の職なり、故に、婦人、其夫に語りていふ、子、既に弋してこれに中て、鳧と雁とを得て歸りなば、我れ、子が爲めに、其滋味の宜しきを和し、之を以て、子と與に、酒を飲み、永く偕老を期すべし、況や、琴瑟の御にあるもの、安靜にして和好ならざる事なければ、宜しく和樂して且たのしむべしと、所謂、樂而不淫といふもの、豈に、獨、關雎の詩のみならんや、

知子之來之。雜佩以贈之。知子之順之。雜佩以問之。知子之好之。雜佩以報之。

婦人、其夫に語りていふ、子の招き來して、新に相知る者と知らば、我れ、將に雜佩を解きて、これに贈らんとす、子の和順して心に逆ふ事なき者と知らば、吾れ、將に雜佩を解きて、これに遺らんとす、子の慕好して尊敬する者と知らば、吾れ、將に雜佩を解きて、これに報いんとすと、雜佩は、左右の佩玉にて、其製造の品、込入りたれば、こゝに畧しつ、此婦人、唯、其一家の職を治むるのみならず、其夫の、賢を親み、善を友として、其歡心を結びて、服玩の物を惜まざる事を欲するなり、誠に、賢妻貞婦の鑒とやいふべき、

○鷄鳴は、詩人、古の賢妃を詠じて、これを美したるなり、

雞既鳴矣。朝既盈矣。匪雞則鳴。蒼蠅之聲。

賢妃、其君の枕席に侍し、夜將に明けなんとする時、君に告げていふ、鷄既に鳴きぬ、會朝の臣、既に盈つるならんと、これ、其君をして、早く起きて朝を視せしめんと欲してなり、然れども、其實は鷄の鳴くにあらず、卽ち蒼蠅の聲なり、これは、賢妃、夙興の時に當て、其

心常に遲からん事を恐るゝが故に、其似たる者を聞きて、眞と思ひたるなり、

東方明矣。朝既昌矣。匪東方則明。月出之光。

再び告げていふ、東方明けぬ、會朝の臣、既に昌んならんと、然れども、其實は、東方の明けたるにはあらず、即ち月出づるの光なり、

蟲飛薨薨。甘與子同夢。會且歸矣。無庶予子憎。

三たび告げていふ、夜、將に明けんとして、百蟲薨々として飛起れり、此時に當て、我れ、豈に、君と夢を同じくして寢る事を樂まざらんや、然れども、朝臣の會する者若し、君を待て、遂に出でざれば、將に皆散じて歸らんとす、果して然らば、我の故を以て、君を憎ましむる事なからんやと、其屢告げて、しば〳〵警むる事、皆、君の德を助成するにあらざるはなし、嗚呼、賢なる哉、

臣大槻清崇敬記　花押

詩經國風十篇解

日本書紀ノ推古紀ニ云、十二年夏四月丙寅朔戊辰、皇太子親肇作憲法十七條、

全文、日本書紀ニ據ル、

聖德太子憲法十七條譯文

按ズルニ、太子ノ十七條、名ハ憲法ト云フト雖ドモ、其實ハ、訓戒告諭ノ文ニテ、律例法度ノ類ニハアラズ、偶門下ノ一僧、敎導職ニ在ル者、來テ之ガ解ヲ作ラムコトヲ乞フ、蓋以テ說敎ノ資ト爲サムト欲スルナリ、余乃チ全文ヲ敷衍シテ、以テ授ク、明治乙亥三月、大槻磐翁、

一曰。以和爲貴。無忤爲宗。人皆有黨。亦少達者。是以或不順君父。乍違于隣里。然上和下睦。諧於論事。則事理自通。何事不成。

人ノ世ニ處スル、和ヲ以テ貴シトシ、其物ニ於ケル、忤フヿナキヲ宗トス、人皆、黨類アリテ、其類甚ダ衆シ、然レドモ亦、義理ニ通ズル者、極メテ少シトス、是ヲ以テ、或ハ君父ニ順ナラズシテ、不忠不孝ニ陷リ、或ハ隣里朋友ニ不和ニシテ、信義ヲ失フニ至ル、然レドモ、上ノ人諧和シ、下ノ人親睦シ、能ク恊和シテ事ノ是非ヲ論究スレ

書紀集解ニ云、佛法僧也四字、拾芥抄諸敎誡部、爲注、後人所加、
法華經、功德品ニ、四生、卵生、胎生、濕生、化生、
國、元亨釋書資治表ニ、化ニ作ル、同書ニ、非貴ヲ不嚮ニ、從之ヲ乃化ニ作ル、
二ノ之ノ字、太子傳ニ、也ニ作ル、
集解ニ云、万、原本作方、據太子傳、拾芥抄、及高野大

バ、則チ事理自ラ通徹シテ、天下何事カ成就セザラム、

二曰。篤敬三寶。三寶者。佛法僧也（此四字、書紀集解、以爲後人所加、可從）則四生之終歸。万國之極宗。何世何人。非貴是法。人鮮尤惡。能敎從之。其不歸三寶。何以直枉。

篤ク三寶ヲ尊敬スベシ、則チ人間衆生ノ歸宿ニシテ、世界萬國ノ極宗要旨ナリ、何レノ世何レノ人カ、此三寶ヲ貴バザル、試ミニ看ヨ、人ニ極惡少シ、能ク敎フレバ之ニ從フ、其レ三寶ニ歸セズンバ、何ヲ以テ、能ク枉レルヲ直ウセムヤ、

三曰。承詔必謹。君則天之。臣則地之。天覆地載。四時順行。万氣得通。地欲覆天。則致壞耳。是以君言臣承。上行下靡。故承詔必愼。不謹自敗。

人臣タル者、天子ノ詔ヲ承ケテハ、必ズ謹ムベシ、何ントナレバ君ハ則チ天ナリ、臣ハ則チ地ナリ、天ハ下ヲ覆ヒ、地ハ物ヲ載セテ、而

師眞蹟墨本、改之、ト、今之ニ從フ。
敷田年治ノ日本紀標注ニ云、平氏太子傳ニ、靡ヲ效ニ作ルト、
乎、拾芥抄ニ、于ニ作ル、
飯田武卿ノ日本書紀通釋ニ云、太子傳暦ニ、而ノ字ナク、非ヲ不ニ作ルト

シテ後ニ、四時順行シ、萬氣通ズルヲ得ルナリ、苟モ、之ニ反シテ、地ヲ以テ天ヲ覆ハムトスレバ、則チ上下顚倒シテ、忽チ破壞ヲ致スナリ、是ヲ以テ、君言ヘバ、臣承ケ、上行ヘバ、下靡クハ、古今ノ通義ナリ、故ニ曰ク、詔ヲ承ケテハ、必ズ愼メト、苟モ謹マザレバ、自ラ敗亡ヲ取ラムノミ、

四曰。群卿百寮。以禮爲本。其治民之本。要在乎禮。上不禮。而下非齊。下無禮。以必有罪。是以君臣有禮。位次不亂。百姓有禮。國家自治。

凡ソ、群卿百僚ノ職ニアル者、皆禮法ヲ以テ本トス、其民ヲ治ムルノ本モ、亦必ズ禮ニアリ、上ノ人、禮アラザレバ、下ノ人、齊シカラズ、下ノ人、禮ヲ無ミスレバ、必ズ罪ヲ蒙ル、是ヲ以テ、君臣皆禮アレバ、上下判然トシテ、位次亂レズ、百姓禮アレバ、國家勞セズシテ、自ラ治マル、

原本、饕ヲ饗トシタリ、日本書紀通證ニ、太子傳作饕トシ、大日本史集解、標注共ニ饕トシタリ、今之ニ從フ、集解ニ須、一作頃トアリ、財ノ下ニ、一本者ノ字アリ、

五日。絶饕棄欲。明辨訴訟。其百姓之訟。一日千事。一日尚爾。況乎累歲。須治訟者。得利爲常。見賄聽讞。便有財之訟。如石投水。乏者之訴。似水投石。是以貧民。則不知所由。臣道亦於焉闕。

訟ヲ聽ク者、先ヅ、己レガ食ヲ貪リ財ヲ貪ル心ヲ棄絶シテ、明カニ訴訟ヲ辨ズベシ、百姓ノ訴訟ハ、一日ニ幾千事アルヲ知ラズ、一日スラ尚然リ、況ンヤ、五年七年ノ久シキヲ累ヌルヲヤ、我ガ憂フル所ハ、訟ヲ治スベキ獄吏ハ、皆利ヲ得ルヲ以テ常ト爲シ、訴人ノ賄賂ヲ見テ、罪ヲ議シ獄ヲ論ズルニアリ、則チ財アル者ノ訟ハ、譬ヘバ、石ヲ以テ水ニ投ズルガ如ク、必ズ逆フヿナク、窮乏ノ者ノ訴ハ、水ヲ以テ石ニ投ズルガ如ク、必ズ受クルヿナキナリ、獄吏ノ常態ハ、大抵此ノ如シ、是ヲ以テ、貧者ハ手足ヲ措ク所ナク、臣道モ亦是ニ於テ闕ク、是レ、獄吏ノ擇バズンバアル可カラザル所以ナリ、

六日。懲惡勸善。古之良典。是以無匿人善。見惡必匡。其諂詐者。

大日本史ニ、无ヲ無ニ作ル、

標注ニ云、平氏太子傳ニ、有官ヲ在官ニ作リ、大少ヲ大小ニ作ルト、大日本

則爲覆國家之利器。爲絶人民之鋒劍。亦佞媚者。對上則好說下過。逢下則誹謗上失。其如此人。皆无忠於君。無仁於民。是大亂之本也。

惡ヲ懲シ善ヲ勸ムルハ、古聖人ノ良典ナリ、是ヲ以テ、人ノ善ヲ見テハ、必ズ匿スヿナク、之ヲ民ニ顯ハスベシ、人ノ惡ヲ見テハ、必ズ赦スヿナク、之ヲ衆ニ匡スベシ、彼ノ諂ヒ笑ヒ、利口ヲ以テ人ヲ詐ハル者ハ、則チ邦家ヲ覆ヘス利器ナリ、人民ヲ斷絶スル鋭劍ナリ、然ノミナラズ、利口ニシテ、媚ビ諂フ者ハ、上ニ對スレバ、則チ好ミテ下ノ過失ヲ說キ、下ニ遇ヘバ、則チ上ノ過失ヲ誹謗ス、夫レ此ノ如キ人ハ、皆君ニ忠義ノ心ナク、民ニ仁愛ノ意ナシ、是レ、大亂ヲ招ク道ナリ、嗚呼、勸善懲惡ノ良典、夫レ遵奉セザルベケンヤ、

七日。人各有任。掌宜不濫。其賢哲任官。頌音則起。奸者有官。禍亂則繁。世少生知。尅念作聖。事無大少。得人必治。時無急緩。遇

寧靜閣四集　卷四

史ニハ、在官、大小ニ作レリ、通證ニ云、太子傳拾芥抄等ニ、求人ノ下ニ、爲人ノ二字アリト、今補フ、又、大日本史ニハ、不ノ字ヲ、爲人ノ上ニ置ケリ、今從フ、

賢自寛。因此國家永久。社稷勿危。故古聖王。爲官以求人。不爲人求官。

人、各任ズル所アリ、職掌、宜シク濫ナルベカラズ、賢哲ノ者、官ニ任ズレバ、頌聲則チ起リ、姦邪ノ者、官ニ在レバ、禍亂則チ繁シ、世ニ、生レナガラニ知ル聖人少シ、常人ト雖ドモ、克ク思念スレバ、則チ聖トナル、事、大小トナク、官、其人ヲ得レバ、必ズ治マリ、時、急緩トナク、賢ニ遇ヘバ、自ラ寛カナリ、此ニ因テ、國家永久ニシテ、社稷危キヿナシ、故ニ、古ノ聖王ハ、官ノ爲メニ賢哲ヲ求メ、人ノ爲メニ官ヲ求ムルヿヲセズ、

八日。群卿百寮。早朝晏退。公事靡盬。終日難盡。是以遲朝不逮于急。早退必事不盡。

凡ソ、群卿百僚、早ク朝シテ、晏ク退クベシ、公事、甚ダ嚴ニシテ、日ヲ終フトモ、盡シ難シ、是ヲ以テ、遲ク朝スレバ、急ナルニ及バズ、早ク退ケバ、事盡キズ、在職ノ諸官、其レ怠惰ナルベケムヤ、

九日。信是義本。每事有信。其善惡成敗。要在于信。君臣共信。何事不成。君臣無信。万事悉敗。

心ノ信ハ、是レ義ヲ行フ本ナリ、故ニ、事每ニ、必ズ信アルベシ、其善惡成敗モ、要スルニ、皆、信ニアリ、信アレバ、善ニシテ且成リ、信ナケレバ、惡ニシテ且敗ル、若シ、君臣共ニ信ナルトキハ、何事カ成ラザラム、君臣共ニ信ナケレバ、萬事悉ク敗ル、成敗ノ機、ソレ畏レザル可ケムヤ、

集解ニ云、太子傳、拾芥抄ニ、君作群、下同、

大日本史、集解、及標注ニ、誰ヲ詎ニ改メ、標注ニハ、「タレカ」ト傍訓セリ、標注ニ云、平氏太子傳ニ、鐶ヲ環ニ作ルト、大日本

十日。絕忿棄瞋。不怒人違。人皆有心。心各有執。彼是則我非。我是則彼非。我必非聖。彼必非愚。共是凡夫耳。是非之理。誰能可定。相共賢愚。如鐶无端。是以彼人雖瞋。還恐我失。我獨雖得。從衆同擧。

忿瞋ノ心ヲ棄絕シテ、人ノ己レニ違フヲ怒ルヿ勿レ、是レ怒ヲ懲

史、集解モ、環ニ作リ、大日本史ニ、无ヲ無ニ作レリ、

罪、原本ニ罰トアリ、通證ニ、太子傳拾芥抄ニ、罪ニ作ルト云ヒ、大日本史、集解、通釋モ、罪ニ改メタリ、今之ニ從フ、原本ニ、靡ヲ

ス要訣ナリ、人、皆、心アリ、心、各、固執アリ、故ニ、彼レ是トスレバ、我コレヲ非トシ、彼レ非トスレバ、我コレヲ是トス、然レドモ、我、必ズシモ聖ニアラズ、彼レ、必ズシモ愚ニアラズ、均シク是レ、凡夫ナルノミ、然ラバ、是非ノ理、誰レカ能ク定ムベケム、是カ非カ、相共ニ賢愚ナルㇷ、循環ノ端ナキガ如シ、是ヲ以テ、彼ノ人瞋ルトモ、我ハ我ガ失ヲ恐レテ、敢テ抗セザレ、我獨リ自ラ是トストモ、衆人ノ公議ニ從テ、同ジク行フベシ、

十一曰。明察功過。賞罰必當。日者賞不在功。罰不在罪。執事群卿。宜明賞罰。

職ニ居テ事ヲ執ル者、群下ノ功ト過トヲ明察シ、賞罰、必ズ當ルヲ要ス、日者、事ヲ行フニ、賞、其功ニ在ラズ、罰、其罪ニ在ラズ、奉職無狀ナルヲ免レズ、事ヲ執ル群卿、宜シク賞罰ヲ明白ニスベシ、

十二曰。國司國造。勿歛百姓。國靡二君。民無両主。率土兆民。以

非ニ作ル、通證ニ云、太子傳ニ、靡ニ作ルト、今從フ、

通釋ニ云、和、水戶本ニ知ニ作ルト、原本ノ古訓點ニ、勿防ニ、「ナサマタゲソ」ト傍訓セリ、大日本史ニハ、妨ト改メテアリ、原本ニ、五百之ニ作ル、通證ニ云、太子傳、拾芥抄ニ、

王為主。所任官司。皆是王臣。何敢與公。賦歛百姓。

國司國造ノ職ニ在ル者、百姓ニ聚歛スルㇷ勿レ、夫レ、國ニ二君ナク、民ニ両主ナシ、普天率土、億兆ノ民、悉ク皆王ヲ以テ主トス、則チ、任ズル所ノ諸官司モ、亦皆王ノ臣ナリ、何ゾ敢テ公ト共ニ、百姓ニ賦歛スルㇷヲ得ムヤ、

十三曰。諸任官者。同知職掌。或病或使。有闕於事。然得知之日。和如曾識。其以非與聞。勿防公務。

諸員ノ官ニ任ズル者、同ジク職掌ヲ知テ、其職ニ竭セ、時アリテ、或ハ、病ニ罹リ、或ハ、外ニ使ヒシテ、事ヲ闕クㇷアリ、然レドモ、職ヲ知ル日ハ、同僚相和スルㇷ、舊相識ノ如クセヨ、事ヲ闕ク時ニ當リテ其事ヲ與カリ聞カザリシヲ以テ、公務ヲ妨グルㇷ勿レ、

十四曰。群臣百寮。無有嫉妬。我既嫉人。人亦嫉我。嫉妬之患。不知其極。所以智勝於己則不悅。才優於己則嫉妬。是以五百歲

五百歳之後ニ作ル、今之ニ從フ、大日本史ニハ、五百之後ニ作ル、

通證ニ云、令、太子傳拾芥抄ニ、今ニ作リ、待、太子傳ニ、得ニ作ルト、

通證ニ云、太子傳拾芥抄ニ、夫ノ字ナシト、大日本史モ削レリ、

標注ニ云、平氏太子傳ニ、二處ノ憾ヲ恨ニ作リ、非同ヲ非固ニ

之後。乃令遇賢。千載以難待一聖。其不得賢聖。何以治國。

凡ソ、群臣百僚、相嫉妬スル心アルベカラズ、我、既ニ人ヲ嫉妬スレバ、人モ亦我ヲ嫉妬ス、相嫉ミ相妬ム患ヒ、其止極スル所ヲ知ラズ、是故ニ、彼レノ智、我ニ勝レバ、必ズ悦バズ、彼レノ才、我ニ優レバ、則チ嫉妬ス、是ヲ以テ、五百年ノ後、乃チ賢者ニ遇ハシムトモ、千年ニシテ一聖人ヲ待ツコト難シ、然リト雖トモ、賢聖ヲ得ズンバ、其レ何ヲ以テ、國家ヲ治メムヤ、

十五日。背私向公。是臣之道矣。凡夫人有私必有恨。有憾必非同。非同則以私妨公。憾起則違制害法。故初章云。上下和諧。其亦是情歟。

私ニ背キ公ニ向フハ、臣子ノ常道ナリ、凡ソ、人、私ノ心アレバ、必ズ恨ミノ心アリ、恨ミアレバ、彼此ノ心、必ズ同ジカラズ、同ジカラザレバ、則チ私ヲ以テ公ヲ妨グ、恨ミ一タビ起レバ則チ制ニ違ヒ、法

作リ、和諧ヲ和睦ニ作ルト、

原本ニハ、以ノ字、可ノ字ノ上ニアリ、今、大日本史ニ從フ、

標注ニ云、平氏太子傳ニ、夫事ヲ大事ニ作リ、少事ヲ小事ニ作リ、理ノ下ニ、矣ノ字アリト、

大日本史ニ

ヲ害スルニ至ル、畏レザルベケムヤ、故ニ、我第一條ニ、以和爲貴ト云ヘリ、則チ、上下和諧ノ謂ヒニシテ、今云フ所ハ、其レ亦此情カ、

十六日。使民以時。古之良典。故冬月有間。可以使民。從春至秋。農桑之節。不可使民。其不農何食。不桑何服。

民ヲ使フニ時ヲ以テストハ、古ヘノ良典ナリ、故ニ、冬月ハ農隙アレバ、民ヲ使フベシ、春ヨリ秋ニ至ルマデハ、農桑ノ並ニ忙シキ時ナリ、民ヲ使フベカラズ、其レ、民、農セズンバ、何ヲ以テ物食ハム、桑セズンバ、何ヲ以テ衣着ム、

十七日夫事不可獨斷。必與衆宜論。少事是輕。不可必衆。唯逮論大事。若疑有失。故與衆相辨。辭則得理。

凡ソ、事、一己ノ私心ヲ以テ、獨斷スベカラズ、必ズ衆ト公論スベシ、小故細事ハ輕シ、必ズシモ衆ト與ニセザルモ可ナリ、但、大事ヲ論ズルニ及ンデハ、若シ過失アラムヲ疑フ、是故ニ、衆ト相論辨スル

ハ、宜ノ字ナシ、

トキハ、辭其理チ得ルナリ、

聖德太子憲法十七條譯文

絕句通韻格引

庚午之秋。余幽囚未解。端居無聊。偶閱聯珠續詩格。至其通韻意動。遂掀翻座右所架唐宋以下諸家集。費十日之勞。拾得二百五十餘首。隨手批之評之。丹黃朱綠。爛然滿紙。顧七十老禿。作此兒戲。使先大人在。未必不奉老萊斑衣之歡。乃分聯珠五格。錄爲二卷。焚香祭之。噫自先人見背。屈指今已四十四年矣。追遠不及。爲之泫然者久之。

明治三年重陽後三日　大槻清崇識

絕句通韻格目錄

起句通韻格
承句通韻格
結句通韻格
承結通韻格
每句通韻格

絶句通韻格

起句通韻格

仙臺　大槻清崇　著

題東林壁 東通冬

蘇東坡

横看成嶺側成峯。遠近高低各不同。不識廬山眞面目。只緣身在此山中。

是所謂燈臺跋暗者、

中秋無月

范石湖

撲地痴雲欲萬重。家家簾幙護房櫳。世間第一無情物。誰似中秋雨與風。

世間不平事、何獨中秋風雨哉、

湖邊

許忱父

湖邊開到木芙蓉。攘盡荷花十里紅。野蓼莫慚顏色淺。榮枯同是一秋風。

粧點湖上秋色、瀟灑可愛、而寓意在其中、

憶住一師 冬通東

李義山

無事經年別遠公。帝城鐘曉憶西峯。爐烟消盡寒燈晦。童子開門雪滿松。

雲　丰鵠

千形萬象竟還空。映水藏山片復重。無限旱苗枯欲盡。悠悠閑處作奇峯。

既作奇峯、謂之無心、可乎、

雷　韓致堯

閑人倚杖笑雷公。又向深山霹恠松。必若有蘇天下意。何如驚起武侯龍。

想到諸葛龍妙、是與前雲詩、異曲同工、皆有意濟民者、

醉下祝融峯作　朱晦翁

我來萬里駕長風。絕壑層雲許盪胸。濁酒三杯豪氣發。朗吟飛下祝融峯。

豪放如此、文公豈勃崒於理窟者哉、

老奴　劉克莊

老奴昔逐我西東。捷似猨猱跳絕峯。今日道旁扶一枴。乃公安得不龍鍾。

初宿海會寺 江通冬　李奎

靈泉流水夜淙淙。月小松高鶴影雙。石榻覺來秋燭冷。誦經聲滿碧山窓。

泛吳松江 江通陽　王禹偁

葦篷疎薄漏斜陽。半日孤吟未過江。唯有鷺鶿知我意。時時翹足對船窓。

仕女春繡圖　楊基

風送楊花滿繡牀。飛來紫燕亦雙雙。閑情正在停針處。笑嚼殘絨唾碧窓。

新作盆池戲題　游九言

瓦盆片石疊青蒼。興入湖山寄小窓。細看纖纖無限樂。寧妨斗水學西江。

陳宮　羅鄴

白玉樽前紫桂香。迎春閣上燕雙雙。陳王半醉貴妃舞。不覺隋兵夜渡江。

後庭舞支通微　孫元晏

嬿婉回風態若飛。麗華翘袖玉爲姿。後庭一曲從敎舞。舞破江山君未知。

命意共自舞字來、駢錄二首、未知驪珠落誰手、

張季翰　杜晦之

千里懷歸便自歸。蓴鱸聊以寄吾思。洛中戰鼓轟天地。正是松江獨釣時。

曰便自、曰聊以、語有斟酌、讀到三四、使人擊節稱妙、

早朝口占　錢宰

四鼓鼕鼕起着衣。午門朝見尙嫌遲。何時得遂田園樂。睡到人間飯熟時。

九日感懷　黃庚

新橙初試蟹螯肥。一曲清歌酒一巵。料得故園秋正好。黃花應怪客歸遲。

館中直宿書事 支通齊　韓駒

十載名山慣杖藜。清都直宿夢魂疑。臥聞長樂鐘聲近。尙憶寒山半夜時。

同一官途也、出處倦勤、有如此者、

鍾山　王半山

偶向松間覓舊題。野人休誦北山移。丈夫出處非無意。猿鶴從來自不知。

自是荆公本領、

玉澗絕句　朱晦翁

獨把瑤琴過玉溪。琅然淸夜月明時。只今已是無心久。却怕山前荷蕢知。

翻有心、爲無心、妙甚、

小破 支通灰　張良臣

小破燕支鈿蚤梅。雪雲平瀋越江遲。靑山歲暮行人少。鳴鴨群飛淺草時。

君不來 微通支　方雄飛

遠路東西欲問誰。寒來無處寄寒衣。去時初種庭前樹。樹已勝巢人未歸。

春晚　方秋厓

靑梅如豆帶烟垂。紫蕨成拳著雨肥。只有小橋楊柳外。杏花未肯放春歸。

蠶婦　謝疊山

子規啼徹四更時。起視蠶稠怕葉稀。不信樓頭楊柳月。玉人歌舞未曾歸。

不是養蠶人、

集于昌齡舍　孔平仲

一醉昏昏萬不知。黃昏促席夜深歸。明朝唯見家人說。昨夜歸時雪滿衣。

醉人常態、說得好笑、

江村即事 徽通齊　　黃庚

江村暝色漸淒迷。數點殘鴉雜雁飛。雁宿蘆花鴉宿樹。各分一半夕陽歸。

一篙　　范石湖

一篙新綠浦東西。雪絮漫江雁不飛。宿雨纔晴風又轉。片帆那得及時歸。

讀荆公詩選 魚通虞　　林方

喚起鍾山執拗夫。生平事業竟何如。早知詩選堪傳世。底用青苗一卷書。

李斯　　陳仲猷

八荒同軌託雄圖。是古非今盡剗除。可惜當時猶漏網。不焚圯上老人書。

二首並讀、可悟靈悉之辨、

夜坐聽雨 虞通魚　　范石湖

四檐密密又踈踈。聲到蒲團醉夢蘇。恰似秋眠天竺寺。東軒窗外　跳珠。

隋柳　　汪遵

夾浪分堤萬樹餘。爲迎龍舸到江都。君看靖節高眠處。只向衡門種五株。

桑茶坑道中 齊通支　　楊誠齋

晴明風日雨乾時。草滿花堤水滿溪。童子柳陰眠正着。一牛喫過柳陰西。

好箇一幅春郊牧牛圖矣、

贈別 齊通微　　蘇東坡

青鳥銜巾久欲飛。黃鶯別主更悲啼。慇懃莫忘分攜處。湖水東邊鳳嶺西。

仲欽寄民爲齋詩和答 佳通灰　　張孝祥

行邊使者幾時回。寄我清風欲滿懷。已把十詩鐫樂石。爲公滿意落新齋。

秋風 灰通佳　　劉後村

黃葉蕭蕭忽滿階。獨騎瘦馬豫章臺。莫將宋玉心中事。吹向潘郎鬢上來。

宋玉、潘郎、湊合得妙、

墨梅　　程月山

洒邊清思巧安排。蜂蝶如知合暗猜。只恐霜天幽絕夜。誤他明月上窗來。

亦是烘雲托月法、

讀和靖集　曾北溪

千里煙雲赴雅懷。鶴知客去自歸來。先生本愛西湖住。不詠荷花却詠梅。

無他、留餘地、以待愛蓮先生耳、

謝寇相公見訪　魏仲先

晝睡方濃向竹齋。柴門日午尙慵開。驚回一覺游仙夢。村巷傳呼宰相來。

松間喝道、魏淸逸、未必爲殺風景耳、

夜歸　范石湖

竹輿伊軋走長街。掠面風淸醉夢回。曲巷無聲門戸閉。一燈猶照酒壚開。

余戲改題云、深夜自日本堤、赴馬道、輿中口占、

仙輿　眞通文　吳菊潭

宮殿沈沈在五雲。鶴搖松露滴行人。洞門不放東風過。留得桃花一樹春。

與徐温話別　方雄飛

去去何時却見君。悠悠煙水似天津。明年今夜有明月。不是今年看月人。

談詩　眞通元　湯東磵

文章於道末爲尊。詩在文章又一塵。偶有好音來過耳。不須抵死要驚人。

論得痛快、但我則不得不左袒浣花翁、

爲人題　鄭谷

淚溼孤鸞曉鏡昏。近來方解惜靑春。杏花楊柳年年好。不忍廻看舊寫眞。

梅下　高栢山

屐齒霜泥印曉痕。慇懃來訪臘前春。對花一笑溪橋側。冷淡相看有幾人。

春日　眞通庚　張南軒

花柳芳洲十日晴。五更春雨送殘春。莫嫌紅紫都吹盡。新綠滿園還可人。

王荊公、以一句括之云、綠陰幽草勝花時、

閨恨　許棐

手炷熏爐對月明。回文機上暗生塵。自家夫婿無消息。却恨橋頭賣卜人。

謝王佺寄丹 眞通青 程伊川

至神通聖藥通靈。遠寄衰翁濟病身。我亦有丹君信否。用時還解壽斯民。

三四頗覺唐突、殊不似有道者之言、可惜、

重過梁波臺廢寺有感 余育

古寺無僧門半扃。重來往事倍傷神。一株殘柳猶青眼。似識當年繫馬人。

詩人吐囑、蘊藉如此、

觀梅 眞通蒸 楊公遠

東閣觀梅效少陵。巡檐索笑面生春。試將心事從渠道。恰又無言領略人。

過杭州故宮 謝皐羽

隔江風雨動諸陵。無主園池草自春。聞說就中誰最泣。女冠猶有舊宮人。

山中秋夜 眞通侵 黃庚

石牀彈月鶴聽琴。玉宇凝秋絕點塵。萬里無雲銀漢淡。一天風露濕星辰。

送松煤十丸與葉秀才 程珌

雲溪深處萬松林。煙起晴天自作塵。根向九華分結處。與君同是墨仙人。

蛩 文通眞 郭震

愁殺離家未達人。一聲聲到枕前聞。苦吟莫向朱門裡。滿耳笙歌不聽君。

探春 戴益

盡日尋春不見春。芒鞵踏遍隴頭雲。歸來適過梅花下。春在枝頭已十分。

昔人有以此詩、爲道在邇而求諸遠注脚者、然作者之意、似未必然、

遇翁靈舒 戴石屏

天台山與雁山鄰。只隔中間一片雲。一片間雲不相識。三千里外却逢君。

輕輕敘去、餘情無限、

濯足五溪成

東風吹水綠鱗鱗。小溆清寒入齒齦。萬里流邊濯雙足。恐行五嶺渙晴雲。

退筆 文通元 林和靖

神功雖缺力猶存。架卓珊瑚欠策勳。日暮閑牕何所似。灞陵憔悴舊將軍。

觀鬭雞偶作　韓致堯

何曾解報稻粱恩。金距花冠氣遏雲。白日梟鳴無意問。唯將芥羽害同群。

掃徑　周權

剝啄無人晝掩門。庭花春晚雪紛紛。山童不解山翁意。掃破蒼苔一逕雲。

題顧符眞畫 文通寒　汪季月

昭陽顧生畫樓觀。絳闕瑤房生白雲。如蟠宮人三百六。手神都似李將軍。

晚鐘 文通先　趙福元

花洲人別月涼舩。寒寺鯨音隔岸聞。帶雨一聲天外落。過江穿破半山雲。

檐玉鳴 文通青　施樞

曉窗風細響檐鈴。一曲雲璈枕上聞。夢斷不知仙路杳。鶴銜松露入青雲。

林高士隱居 文通侵　黃庚

家住西湖深更深。古松陰裏禮茅君。白猿攀樹藤花落。點破巖前一地雲。

聞寺中曉鼓　施樞

靈鼉一鼓振潮音。征夢迢遙枕畔聞。語斷頻伽天正曉。松風吹散滿山雲。

端午 元通眞　戴石屏

榴花角黍薦時新。何處家家不酒樽。堪笑江湖老詩客。也隨蒿艾上朱門。

遯軒　蘇東坡

冠蓋相望起隱倫。先生那得老江村。古來眞遯何曾遯。笑殺踰垣與閉門。

清明 元通文　杜牧之

清明時節雨紛紛。路上行人欲斷魂。借問酒家何處有。牧童遙指杏花村。

暮歸　趙周臣

貪看孤鳥入重雲。不覺青林雨氣昏。行過斷橋沙路黑。忽從電影得前村。

寫夏秋間暮景、迷離眩目、

長門怨　劉媛

學掃蛾眉獨出群。當時人道便承恩。經年不識君王面。花落黃昏空掩門。

古博嶺 在越城西　姚寬

北風獵獵駕寒雲。低壓平川路欲昏。人馬忽驚俱辟易。一聲乳虎下前村。

比之俞清老猛虎一聲句、實見實事、最使人森毛髮、我邦無虎而有狠、河寬齋宿山家云、近有後山狠乳子、一聲震地五更風、廣淡窓云、乳狠夜半來求食、一徑菅茅蹈有聲、余亦倣顰云、尖風穿隙利於刀、獨宿樵家擁弊袍、何處乳狠聲若豹、一輪月小夜山高、

春日客舍 寒 通 删　張橫渠

識盡東南萬里山。靑春日月坐銷難。如何別却故園後。五度花開五處看。

雲開見華山　李頻

夾道人家水竹間。馬頭山色畫應難。天公故自開雲幙。乞與蓮峯仔細看。

天陰 寒 通 先　趙仁甫

數日陰晴斷復連。不成輕暑不成寒。天公亦似摸稜手。欲雨欲晴持兩端。

此詩有寓意、亦似二字、可味、

雁字　王烈孫

空碧澄秋一幅箋。幾行斜去寫淸寒。君王不侈東封事。莫作天書想像看。

釣臺 删 通 寒　戴石屛

萬事無心一釣竿。三公不換此江山。平生恨識劉文叔。惹得虛名滿世間。

眞箇桐江知已矣、但石屛知其一、余更補其二云、故人文叔爲天子、我豈坐茹王土毛、聊將氣節助風敎、孰與君房鼎足高、

中秋雨　張至龍

雨聲敲作桂花寒。書件孤燈照老顏。月色正供金闕宴。分光應不到人間。

東陽道中　陸放翁

風欹烏帽送輕寒。雨點春衫作碎斑。小吏知人當著句。先安筆硯對溪山。

詠史 删 通 先　李九齡

有國由來在得賢。莫言興廢是循環。武侯星落周瑜死。平蜀降吳似等間。

已至湖尾望見西山　楊誠齋

好風穩送五湖船。萬頃銀濤半霎間。已入江西猶未覺。忽然對面是西山。

望湖樓醉書 先 通 删　蘇子瞻

黑雲翻墨未遮山。白雨跳珠亂入船。卷地風來忽吹散。望湖樓下水如天。

此詩、古今人所激賞、不必待評贊、余嘗游松島逢雨、賦一絶曰、晩來白雨入船多、奇景使人呼奈何、潑墨滃雲包月去、餘光落水碎金波、

早入諫院　　鄭谷

玉階春冷未催班。暫拂塵衣就笏眠。孤立小心還自笑。夢魂潛繞御鑪煙。

春夜 先通寒　　卞蘭窓

月到江樓第幾欄。金凫銷盡水沈煙。玉簫吹斷梨花夢。一半春心屬杜鵑。

久雨地濕　　范

汗礎經旬未肯乾。破窓隨處有蝸涎。祇今不耐春陰得。想見黃梅細雨天。

寶巖僧舍 先通元

寂寂鐘魚柏滿軒。午風輕颺煮茶煙。西堂竟日無人到。只許山人借榻眠。

題九華化成峯　　周必大

攀蘿度險捷猱猿。石角鈎衣屐盡穿。莫訝遠尋金地藏。也曾徐步玉階前。

田園雜詠 蕭通肴　　范至能

屋上添高一把茅。密泥房壁似僧寮。從教屋外陰風吼。臥聽籬頭響玉簫。

博浪沙 蕭通豪　　陳孚

一擊車中膽氣豪。祖龍社稷已驚搖。如何十二金人外。猶有民間鐵未消。

是與陳仲猷李斯詩、同一奇想、而彼漏書、此漏鐵、卽天網之所以踈而不漏也、

龍女祠　　司馬光

素舸朱篷青竹篙。櫂歌風散近還遙。斜陽借問歸何處。家住水村郎姓蕭。

五月九日舟中偶成　　張若駒

水窓晴掩日光高。河上風寒正長潮。忽忽夢回憶家事。女兒生日是今朝。

袁倉山、評此詩云、把女字、換男字、便不成詩、信然、

春遊 肴通蕭　　趙信庵

一抹輕煙隔小橋。新篁搖翠兩三梢。惜春不覺歸來晚。花壓重門帶月敲。

四時田園雜詠 肴通豪　　范石湖

斜日低山片月高。睡餘行樂繞江郊。霜風掃盡千林葉。閑倚筇枝數鸛巢。

暮春即事 豪通蕭　　楊誠齋

花時追賞夜將朝。花過遲眠日儘高。又與山禽爭口腹。執竿挾彈守櫻桃。

蘭花　許棐

竹底松根慣寂寥。肯隨桃李媚兒曹。高名壓盡離騷卷。不入離騷更自高。

清畫 陽通江　朱叔眞

竹搖淸影罩幽窗。兩兩時禽噪夕陽。謝却海棠飛盡絮。困人天氣日初長。

山水圖

丹楓絕壁照空江。萬里靑天在野航。臥展南華秋水讀。不知嵐翠濕衣裳。

移家別湖上亭 庚通靑　戎昱

好是春風湖上亭。柳條藤蔓繫離情。黃鶯久住渾相識。欲別頻啼四五聲。

既載周選拾遺、今不復評、

讀李白集　鄭谷

何事文星與酒星。一時鍾在李先生。高吟大醉三千首。留着人間伴月明。

淮中晚泊犢頭　蘇子美

春陰垂野草靑靑。時有幽花一樹明。晚泊孤舟古祠下。滿川風雨看潮生。

又是與韋蘇州滁州西澗詩、何格調風趣之太相似也、乃知詩至妙境、不必分唐宋、

和孔密州東欄梨花　蘇東坡

梨花淡白柳深靑。柳絮飛時花滿城。惆悵東欄一株雪。人生看得幾淸明。

初秋暮雨　楊誠齋

禾穟輕黃尙淺靑。村春已報隔林聲。忽驚暮色翻成曉。仰見雙虹雨外明。

描寫之巧、畫工不及、

上萊公 庚通蒸　蒨桃

一曲淸歌一束綾。美人猶自意嫌輕。不知織女寒窗下。幾度拋梭織得成。

以侍兒之賤、怨而不怒、得詩人忠厚之旨、

題多景樓　王悰

秋滿闌干晚共凭。殘煙衰草最關情。西風吹起江心浪。猶作當時擊楫聲。

睡覺　范致能

尋思斷夢半瞢騰。漸見天窓紙尾明。宿鳥噪群穿竹去。縣前猶自打殘更。

過湘陰寄千巖 庚通眞　姜堯章

縹緲臨風思美人。荻花楓葉帶離聲。夜深吹笛移船去。三十六灣秋月明。

流麗纏綿、如讀秦風蒹葭三章、

山行　李頤齋

身世勞勞厭俗塵。閑拖健竹作山行。雖然未結山林願。山色於人卽有情。

友人見訪不遇 庚通文　黃子蕭

君乘白鶴下青雲。我入春山聽曉鶯。可惜小樓風雨過。無人取拾萬松聲。

宜興山房 庚通侵　李曾伯

四壁寒蛩作苦吟。喚回旅夢約三更。不知身在禪房宿。誤聽松風作雨聲。

雨霖鈴曲 青通眞　楊士凝

天子猶難活婦人。梨園枉唱雨霖鈴。萬層劍嶺千條峽。忍使官家掩淚聽。

張麗華墓　吳龍翰

結綺臨春跡已塵。尙餘抔土鎖娉婷。玉顏不及隴頭草。歲歲春風吹得青。

秋日西湖 青通庚　僧道潛

欲跨高樓曠遠情。無端秋雨苦冥冥。崢嶸日脚漏雲處。瞥見遙山一抹青。

題齊安城樓　杜樊川

嗚軋江樓角一聲。微陽瀲灧落寒汀。不用憑欄苦回首。故鄕七十五長亭。

音節洋洋、誦之使人超然思遠、盖柳儀曹之流亞、

子陵釣臺　成齋堂

節義功名總不輕。南宮圖像煥丹青。如何只畫風雲將。不畫桐江一客星。

野史氏曰、中興二十八將、惟先生、以光武故人不與焉、

讀秦紀　蕭汎之

築了連雲萬里城。春風綰管醉中聽。凄凉六籍寒灰裏。宿得咸陽火一星。

直括阿房宮一賦、爲二十八字、若以轉結而已、則淺之視此詩也、

四時田園雜詠　范石湖

朱門乞巧沸歡聲。田舍黃昏靜掩扃。男解牽牛女能織。不須邀福渡河星。

不唯戲謔不爲虐、足以解盲俗之惑矣、余嘗作七夕解、道此意、篇長不錄、

猫臥花下 青通蒸　李漁

劉安鷄犬盡飛升。留下狸奴守錦庭。香國近來多鼠患。不妨權作護花鈴。

自是滑稽者流之語、使人解頤、

有懷 蒸通青　陸放翁

筇杖斜斜倚素屏。北窓遙夜冷如氷。何時得與平平友。作字觀書共一燈。

寒夜獨步中庭 蒸通庚

忍寒索句蹈霜行。刮面風來鬚結氷。倦僕觸屛呼不答。梅花影下一窓燈。

淸明　王元之

無花無酒過淸明。興味蕭然一野僧。昨夜隣家乞新火。曉窓分與讀書燈。

秋胡子　錢菊友

郎恩葉薄妾氷淸。郎說黃金妾不譍。若使偶然通一笑。半生誰信守孤燈。

求趙評事酒 蒸通侵　趙竹所

半老情懷睡不禁。小檐霜月當寒燈。無人來問相如渴。敲碎梅花一夜氷。

海棠 蒸通眞　葛立方

濯錦江邊雨露勻。杜鵑啼血染香繒。自緣佳處詩難貌。不是無花開杜陵。

湖上寓居 蒸通青　姜堯章

苑牆曲曲柳冥冥。人靜山空見一燈。荷葉似雲香不斷。小船搖曳入西陵。

雨後道間見紅梅 侵通眞　施樞

元都境界玉堂身。輕裊湘帬步曉陰。昨夜雨肥添酒暈。紅情染得十分深。

周必大

鳴珮甘泉不乏人。誰能博古復通今。直如汲黯非游俠。忠似更生不鑄金。

東起 侵通青　陳起

東起仙翁肘後經。且參思邈枕中吟。夜來獨臥寒無寐。憶殺黃裯舊破衾。

立秋後三日泛舟越來溪 覃通咸

西風初日小溪帆。旋織波紋縐淺藍。行入鬧荷無水面。紅蓮沈醉白蓮酣。

垂虹亭　米芾

斷雲一葉洞庭帆。玉破鱸魚霜破柑。好作新詩寄桑苧。垂虹秋色滿東南。

武夷櫂歌　朱晦庵

四面東西兩石巖。巖花垂露碧㲯毿。金鷄叫罷無人見。月滿空山水滿潭。

西湖游春卽事 覃通寒　馬臻

鏤玉雕瓊簇鬧竿。珠花翠葉縷金籃。東家年少貪游冶。正値明朝三月三。

和高吉父 覃通先　杜範

飲啄於人似有緣。又將塵面對瞿曇。儒冠未必非相悞。時聽鐘聲靜夜參。

田父詞 鹽通元

處處叢祠鼓笛喧。已占蠶麥十分添。醉騎牛背歸來晚。亂把山花揷帽檐。

過玉山東三塘 鹽通先　楊

筍輿拾得小凉天。旋與開窓急捲簾。十里輕雲閣秋日。日光移在遠峯尖。

書瘦巖僧詩卷後 咸通寒　徐集孫

泛湘遊岳慣風寒。怯挂田文半臂衫。吐出煙雲冰雪句。山肩莫怪瘦巖巖。

江邊卽事 咸通覃　何應龍

一江春水碧於藍。船趁潮來不上帆。渡口酒家賒不得。問人何處典春衫。

和子由除夜元日省病致齋　蘇東坡

白髮蒼顏五十三。家人遙遣試春衫。朝回兩袖天香滿。頭上銀幡笑阿咸。

承句通韻格

訪隱者 東通冬　郭祥正

小徑斜分石磴通。蕭蕭古屋隔杉松。主人無事晝慵起。殘雪滿庭春未融。

山丹已盛　林希逸

夏半葵榴亦頓空。臨池還未見芙蓉。花神也念翁岑寂。數本山丹著意紅。

硯屏 東通江　林子來

露葦霜荷落晚風。數行歸雁下秋江。何人收拾江湖景。都在明窓淨几中。

江字押東韻、所罕見、或是空字誤、未可知也、

勸入廬山讀書 冬通東　　李群玉

憐君少雋利如鋒。氣爽神清刻骨聰。片玉若磨惟轉瑩。莫辭雲外入廬峯。

送吳興太守　　劉一止

鷄皮鶴髮病龍鍾。誤入林宗裁鑒中。平生氣慨今如此。自對青銅惜此儂。

訪戴圖 支通微

溪光月色本清奇。何事扁舟只恁歸。要識去來皆興耳。歸時更好似來時。

初秋戲作山居雜興、俳體、　　楊誠齋

月色如霜不粟肌。月光如水不沾衣。一年沒賽中元節。政是初涼未冷時。

過舅氏宅 支通齊　　僧道燦

牆頭楊柳老無枝。門外新泥淤舊泥。因看兒童騎竹馬。憶曾隨母北歸時。

儀眞館中雜題 魚通虞　　郝經

持節江頭久食魚。館人供鴈意踟躕。呼兒細看雲間足。恐有中原問訊書。

回鄕偶書 灰通支　　賀季眞

少小離家老大回。鄕音無改鬢毛衰。兒童相見不相識。笑問客從何處來。

如此置辭、盛唐亦晚唐矣、不如第二首之眞情有餘也、

湖上寓居雜詠 灰通佳　　姜堯章

輦路垂楊兩行栽。苑門秋水欲平堦。朝朝南望宮雲起。白鳥一雙山下來。

和人獨酌　　陳淵

共矜春色盡銜杯。文字紅裙各有儕。何似西園閑處士。一杯花下畏人來。

卽事　　杜樊川

小院無人雨長苔。滿庭脩竹間疎槐。春愁兀兀成幽夢。又被流鶯喚醒來。

晚唐一派、旣開南宋三家法門、

途中 眞通文　　杜範

蹈京塵動數旬。歸又復見書雲。陰已放陽來復。看取新年別有春。

與子仁登天柱岡過胡家塘蕁塘歸東岡 眞通元

厭看家園桃李春。蹈青行遍四山村。芳菲看盡還歸看看得園花特地新。

楊

兵火後還里 眞通庚　嚴粲

十載青山幾戰塵。還家何處訪親情。兒時巷陌今難認。郤問新移來住人。

初泛瀟湘 寒通元　范石湖

六槳齊飛急下灘。碧琉璃上雪花翻。越來溪色淸如此。只欠磯頭一釣竿。

雲庵覓詩 寒通删　陳藻

百級危階上翠巒。四邊山色自低環。海鄉無限蕭條景。收到樓前是美觀。

劉上舍以詩送牡丹幷酒和之二首 寒通先　杜範

春愁風雨不禁寒。紅盡枝頭綠已圓。誰遣佳人伴岑寂。初酣卯酒臉勻丹。

蘇稽鎭客舍 先通元

送客都回我獨前。何人開此竹間軒。灘聲悲壯夜蟬咽。倂入小窓供不眠。

永王東巡歌 蕭通肴　李太白

祖龍浮海不成橋。漢武潯陽空射蛟。我王樓艦輕秦漢。却似文皇欲度遼。

送王希赴任衢州判官 庚通眞　魏野

秋江四十有餘程。稱作紅蓮汎去新。從闕到州堪羨處。船中坐臥看山行。

陳後主祠 庚通靑　洪舜兪

眞珠簾下變離聲。多少嬙妃掩袂聽。贏得牢愁三萬斛。孤舟撑入大梁城。

此首、勝前卷羅鄴孫元晏二首、遠甚、

過眞陽峽　楊廷秀

榕樹陰中一葦橫。鷓鴣聲裏數峯青。南人到此亦腸斷。不是南人作麽生。

白雲泉僧舍題壁　王廷謂

白板扉開小閣明。閑雲漠漠水冷冷。翛然便覺塵襟滌。心與寒泉一樣淸。

宿柳河　劉敞

相望不容三日行。多岐無奈百長亭。欲知河柳春來綠。正似松山雪後晴。

糖霜 庚通蒸 楊誠齋

亦非崖蜜亦非餳。青女吹霜凍作冰。透骨清寒輕着齒。嚼成人跡板橋聲。

是所謂氷砂糖者、

氷 十歲作 程珌

白日黃流漲渭城。三更風緊盡成冰。莫言此物渾無用。曾向滹沱渡漢兵。

結句通韻格

秦中凱歌 支通齊 王士正

涇原西北駐王師。尺一無煩介馬馳。共道皇恩天浩蕩。不教京觀築鯨鯢。

惜春 徐集孫

輕寒惻惻雨絲絲。獨坐吟牀日較遲。方此惜春容易老。晚風吹落野棠梨。

春日雜興 微通齊 王同祖

清明過了柳花飛。簾外萋萋草正肥。喚起惜春情緒處。空山殘月杜鵑啼。

日晚歸山詞 齊通支 施肩吾

虎跡新逢雨後泥。無人家處澗邊溪。獨行歸客晚山裏。賴有鷓鴣臨路岐。

弋陽渡頭 劉過

車聲盡日滑黃泥。怕聽空桑叫竹鷄。風雨不知春早晚。柳條搖綠半江垂。

初秋 佳通灰 歐寓庵

桐葉離離欲滿階。乍凉天氣客情懷。十年舊事雲飛盡。一夜雨聲都送來。

詠史 眞通文 文同

不得榮陽遂失秦。始知成敗盡由人。可憐一擲贏天下。只使黃金四萬斤。

詩亦如陳儒子、才鋒無前、

五松驛 李商隱

獨下長亭念過秦。五松不見見輿薪。只應既斬斯高後。尋被樵人用斧斤。

杏花 文通元 王銍

醉裏餘香夢裏雲。又隨風雨去紛紛。人間春色都多少。莫掃殘英枉斷魂。

惜春 文通侵 兪桂

春事三分過二分。桃花水上覓紅雲。遊人浪說春歸去。柳外黃鸝尙自吟。

絶句 寒通先 蘇東坡

此身分付一蒲團。靜對蕭蕭竹數竿。偶爲老僧煎茗粥。自携修綆汲清泉。

同前 寒通刪

天風吹月入闌干。烏鵲無聲夜向闌。織女明星來枕上。乃知身不在人間。

寄書後作 刪通寒 林希逸

幾度題書客未還。歸鴻歷歷度鄉關。遙知一紙平安字。慈母燈前閣淚看。

亦有至性者之言。

題梅關 周南峯

境在平夷方寸間。不栽荆棘占寬閑。四園盡是梅花了。只欠清風竹數竿。

天台書事 曹勛

清曉鵶啼睡夢間。喜聞飛雪滿前山。攬衣忙作披衣意。不問輕寒且憑欄。

春曉 蕭通肴 陳允平

曉風獵獵卷芭蕉。簾幙深深燕子飄。十二畫欄多倚遍。一雙胡蝶上花梢。

清明感傷 侵通眞 戴復古

客中今日最傷心。憶着家山松樹林。白石岡頭聞杜宇。對他人墓亦沾巾。

九日對菊同禧伯中賦 覃通咸 張本

子山半落去江南。賦主悲哀尙一堪。只恐秋天聞亦苦。倂催紅雨下霜巖。

除夜自石湖歸苕溪 姜堯章

桑間篝火郤宜蠶。風土相傳我未諳。但得明年少行役。只裁白紵作春衫。

留題城西水磨 咸通覃 楊傑

客來亭上脫春衫。馬浴寒泉洗轡銜。怪得主人晉再住。水聲林影似江南。

承結通韻格

內直 魚虞 黃山谷

人間風日不到處。天上玉堂森寶書。想得東坡舊居士。揮毫萬斛瀉明珠。

燈詞 齊支 姜夔

沙河雲合無行處。惆悵來游路已迷。卻入靜坊燈火室。門門相似列蛾眉。

和司錄行縣道中偶風雨有感之作 齊微 陳淵

山頭漠漠煙藏樹。山下潺潺水滿溪。全勝長安花柳陌。萬人塵裏逐輪歸。

題墨梅 佳灰 張子文

長愛孤標似君子。不禁橫竹巧擠排。短幅離離乃遺像。至今寒蝶誤飛來。

投誠齋 灰佳 劉過

綾衾厭入承明直。卻把一麾江上來。雲氣隔天迷望眼。不堪花落幾宮槐。

昨日晚歸戲成絕句 刪寒 呂本中

踈燈欲盡漁商市。小雨似開桃李顏。一夜簷聲鳴甕盎。無人知我坐蒲團。

烹茶 呂本中

水光欲盡瑠璃影。玉色初浮翡翠斑。便覺趨生風味好。小樓新火對蒲團。

次金東園農家雜詠 先元 楊公遠

婦作生涯勤杼柚。夫營活計在桑田。老翁榾柮爐邊坐。幼稚簷前負日暄。

冬景 庚青 明宣宗

池頭六出花飛遍。池水無波凍欲平。一望玻瓈三百頃。好山西北玉爲屏。

新泉 青庚 黃庶

牆根新冽寒泉眼。風廊一股來泠泠。燈花夜半知我喜。恰是舊山穿石聲。

贈藍琴士 蒸庚 葛長庚

夜來莫說西山冷。見說廬山夏有氷。直恐與君相別後。錯聽猿嘯作琴聲。

晚歸府 鹽咸 白樂天

晚從履道來歸府。街路雖長尹不嫌。馬上涼於牀上坐。綠槐風透紫蕉衫。

每句通韻格

晚望 齊支微

天墮楸枰作稻畦。啼烏振鷺當枯棋。不論勝負端何似。黑子終多白子稀。

重陽後菊花 眞文元 范至能

過了登高菊尙新。酒徒詩客斷知聞。恰如退士垂車後。勢利交親不到門。

湖天暮景　楊

坐看西日落湖濱。不是山銜不是雲。寸寸低來忽全沒。分明入水只無痕。

高景庵泉亭　眞元文

峰頭揮手笑紅塵。天入雙眸洗翳昏。萬里西風熟秔稻。白雲堆裏著黃雲。

是所謂五色博士詩、而青字、黑字、藏在第二句、狡甚、

觀棋　元文眞　錢牧齋

黑白相持守壁門。龍拏虎攫賭侵分。重瞳尙有烏江敗。莫笑湘東一目人。

窪天民詩、七十二黑子、未免白登圍、烏江敗、白登圍、爲天然奇對、

次韻答寶覺　先刪寒　蘇東坡

芒鞵竹枝布行纏。遮莫千山又萬山。從來無脚不解滑。誰信石頭行路難。

題蔡仲卿青在堂　刪寒先　戴復古

幾人富貴不能閒。夜運牙籌日跨鞍。役役一生忙裏過。不知屋上有靑天。

警醒世人不少、

紙衾　侵眞文　沈說

碎擣霜藤月下砧。清泉瀉出簟紋勻。老翁釆藥歸來晚。剪得山南半段雲。

上平聲

一東　古通冬、轉江、韻略、通冬、轉江、

起句、通冬三首、承句通冬二首、通江一首、結句、通冬二首、通江一首、

二冬　古通東、

起通東五、承通東三、結通東一、

三江　古通陽、

起通冬一、通陽四、

四支　古通微齊灰、轉佳、韻略、通微齊佳灰、

起通微四、通齊三、通灰一、承通微二、通齊一、結通齊三、而通佳未見、

五微古通支、

起通支四、通齊二、結通齊一、

六魚古通虞、韻略同、

起通虞二、承通虞一、

七虞古通魚、

起通魚二、

八齊古通支、

起通支一、通微一、結通支二、

九佳古轉支、

起通灰一、結通灰一、

十灰古通支、

起通佳五、承通支一、通佳三、

十一眞古通庚青蒸、轉文元、韻略、通文元寒刪先、

起通文二、通元三、通庚二、通青二、通蒸二、通侵二、承通文二、通庚一、結通文二、

十二文古轉眞、

起通眞四、通元三、通寒一、通先一、通青一、通侵二、結通元一、通侵一、

十三元古轉眞、

起通文四、通眞二、通寒一、通先二、

十四寒古轉先、

起通元一、通刪二、通先二、承通元一、通刪一、通先一、結通先二、通刪一、

十五刪古通覃咸、轉先、

起通寒三、通先二、結通寒三、而通覃咸未見、

下平聲

一先古通鹽、轉寒删、

起通删二、通寒二、通元二、承通元二、而通鹽未見、

二蕭古通肴豪、韻略、同、

起通肴一、通豪二、承通肴一、結通肴二、

三肴古通蕭、

起通蕭二、通豪一、結通豪一、

四豪古通蕭、

起通蕭二、結通蕭一、

五歌古轉麻、韻略、通麻、

六麻古轉歌、

遍閱唐宋金元明淸諸家絕句。諸韻皆有通轉。獨歌麻二韻。未見一首相通者。余謂。古體未博考。其在絕句。要當定以爲獨用。古韻韻畧之說。皆不可從。

又按。古體。如昌黎石鼓歌。一韻三十二押。不見一字犯麻韻者。馬子才浩浩歌亦然。卽坡公北山僧舍詩。麻韻十押。亦無一字入歌韻。則古體亦當爲獨用歟。且待後考。

七陽古通江、轉庚、韻略、獨用、

起通江三、結通江一、而通庚未見、

八庚古通眞、韻畧、通靑蒸、

起通靑五、通蒸三、通眞二、通文一、通侵一、承通眞一、通蒸二、通靑五、結通靑二、通蒸一、

九靑古通眞、

起通眞二、通庚五、通蒸一、承通庚一、結通庚二、通蒸一、通侵一、

十蒸古通眞、

[起]通庚三、通靑二、通眞一、通侵一、[結]通庚一、

十一尤（古獨用、韻畧同、）

十二侵（古通眞、韻畧、通覃鹽咸、）

[起]通庚一、通靑二、通眞三、[結]通眞一、而通覃鹽咸未見、

十三覃（古通刪、）

[起]通寒二、通先一、通咸三、[承]通咸一、[結]通咸二、而通刪未見、

十四鹽（古通先、）

[起]通元一、通先一、

十五咸（古通刪、）

[起]通寒一、通鹽一、通覃二、[結]通覃一、而通刪未見、

以上、百五十六首、

承結通韻、十八首、

每句通韻、十四首、

總計一百七十六首、

絕句通韻格淨書本二卷。久既散佚。今拾收原稿零紙斷片縱橫塗抹者。錯綜次序。爲一卷如此。脫漏甚多。覽者諒焉。

文彥記

絶句通韻格

磐溪著述目錄

既刊之部

一西遊紀程 天保二年秋刋 二卷

附 瓊浦筆語 磐溪小稿 磐溪文稿 磐溪詩稿

一寧靜閣一集 嘉永元年正月刋 五卷

磐溪文鈔上 磐溪文鈔下

磐溪詩鈔一 卜居初集 天保十一年刋

磐溪詩鈔二 遊囊別錄 東征紀行 西歸紀行 武相紀遊 房總紀遊 銚港雜詠

磐溪詩鈔三 鷄肋存稿

磐溪詩鈔四 焦尾餘韻

一孟子約解 上孟、嘉永四年秋刋 三卷

一周選絶句拾遺 嘉永五年十一月刋 一卷

一新選十二家絶句 安政元年七月刋 二卷

一合衆國小誌　安政二年四月刊　二卷

一寧靜閣二集　安政五年十月刊　三卷

　磐溪文鈔二集　聊娯集

　磐溪詩鈔二編一　一百詩鈔

　磐溪詩鈔二編二　龍蛇集　附白石美談　前孝勻行　後孝勻行

一三體詩絶句解　萬延元年四月刊　二卷

一近古史談　元治元年十一月刊　四卷

一國史百詠　慶應元年十月刊　後入國詩史畧　一卷

一奇文欣賞　明治元年十二月刊　四卷

一古經文視　明治三年成十年刊　二卷

一寧靜閣三集　明治三十年六月刊　四卷

　磐溪文鈔三集上　磐溪文鈔三集下

　昨夢詩曆　二冊、明治四年八月刊

　國詩史畧　二冊、明治五年三月刊

一寧靜閣四集　目錄在三本書卷首　四卷

寧靜閣四集正誤

卷	丁	行	誤	正
卷二	八面	十三	命內	內命
	八背	四	議	讖
	三十六背	十二	盜糧	盜餘糧
	四十一背	十三	亨	享
	四十六面	九	四年辰	四年戊辰
卷三	十九面	九註	宇	字
	三十七背	欄外	人神	神人
卷四	六背	一	膽	瞻
	十面	九	ぐひ	儀匹（たぐひ）
	十六面	欄外	卿	鄉
	二十五背	十二	外ノ下	聽

卷一	二十五丁面	十三行	夢入西湖
卷二	五十一丁面	二行	晋陶淵明作孝傳
同	同	十一行	妃兄嫂

□□眞道藏書

明治四十一年六月五日印刷
明治四十一年六月八日發行

寧靜閣四集奥付

著作者 故 大槻磐翁

發行者 東京府北豐島郡日暮里村大字金杉二百五十八番地 大槻文彦

印刷者 東京市本所區番場町四番地 廣瀬鍾太郎

印刷所 東京市本所區番場町四番地 內外印刷株式會社

賣捌所 東京市京橋區南傳馬町一丁目十二番地 吉川弘文館